



令和4年度若手フォーラム 第4回ワークショップ

ファシリテーター
株式会社フードサニテーション 7 8
山下安信

令和4年度若手フォーラム第4回ワークショップ

テーマ 食品産業におけるガバナンスとCSV経営

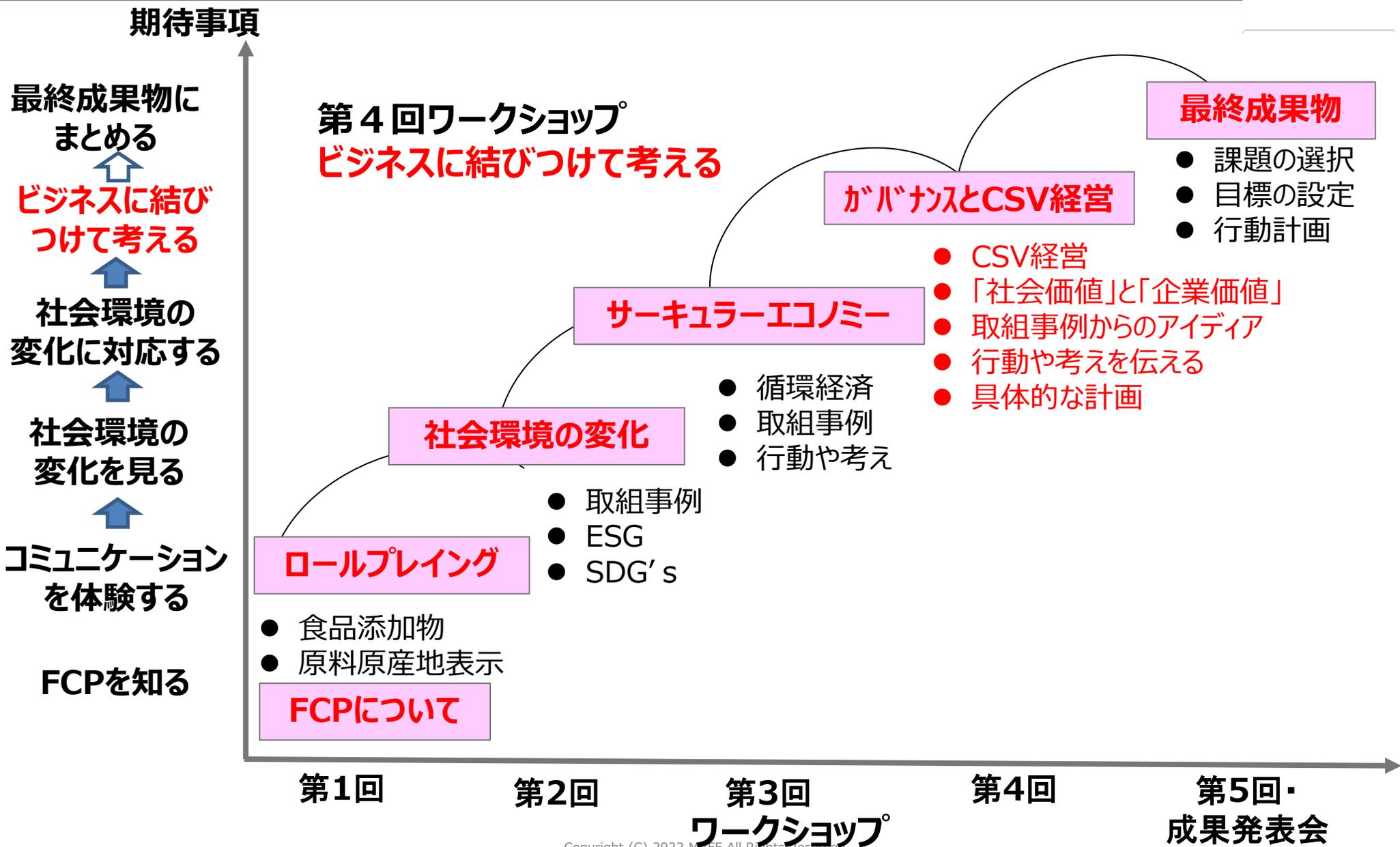
目的

企業が社会的な課題への事業を通じた解決を目的に、「社会価値」と「企業価値」を両立させる取り組みについて理解し、具体的な計画案を作成する

ポイント

- 食品関連事業者が取り組むCSV経営の実践例を学ぶ
FCP経験者の経験を学ぶ
- 食品事業者が目指す未来像（目標の設定）を考える
- ワークショップを通して、スキルアップに有効活用する

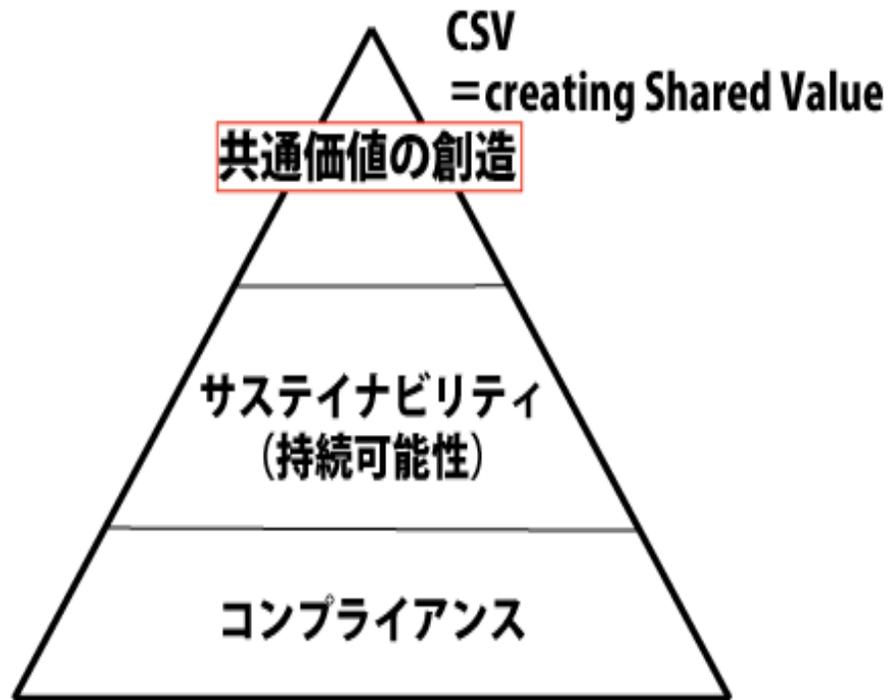
令和4年度若手フォーラム第4回ワークショップ



食品産業におけるガバナンスとCSV経営

食品産業におけるCSVの取組

CSV : Creating Shared Value 「共有価値の創造」または「共通価値の創造」
経営学者であるマイケル・ポーター博士が提唱
企業の事業を通じて社会的な課題を解決することから生まれる「社会価値」と「企業価値」を
両立させようとする経営フレームワーク



CSRとCSVの違い

	CSR (Corporate Social Responsibility) 企業の社会的責任	CSV (Creating Shared Value) 共通価値の創造
目的	企業としての責任を果たし、顧客や株主との良好な関係を保つため	社会問題を解決して、自社の利益を確保するため
本業との関係性	関係ないことが多い 事業の利益とは別物として考えられている	関係がある 事業として社会問題に取り組むため、利益と連動している

食品産業におけるガバナンスとCSV経営

食品産業におけるCSVの取組

CSV経営を実践するための3つの共通価値とアプローチ方法

3つの共通価値	アプローチ方法	実践例
①自社製品やサービスの見直し	社会的な課題を解決する新しい商品やサービスを生み出すことにより「社会価値」と「企業価値」の両立を図るアプローチ	<ul style="list-style-type: none">・生活習慣病の予防につながるような商品の開発・健康素材を添加した商品開発
②バリューチェーン※全体の生産性の改善 ※製品の開発、製造、販売、労務などの価値の連鎖	バリューチェーン全体を見直すことにより、潜在的・関連的な社会的課題を解決すると同時にコスト削減等の企業価値の創造を実現するアプローチ	<ul style="list-style-type: none">・品質の高い原料を安定的に仕入れるために農家を育成する・CO2の削減や水の使用量削減、工場建設時の環境保全・供給不足で材料原価が高騰するようなリスクに対し、調達先を新しく見つけ育て安定的な調達先を確保
③産業クラスター※の創出（地域貢献） ※大学や企業等が連携し、イノベーションや産業創生に取り組むシステム	自社の企業価値を高めるため、生産性やイノベーションに影響を与える産業クラスターを形成し、社会的課題の解決を図ろうとするアプローチ	<ul style="list-style-type: none">・栄養学の知識を親子参加型のプログラムで発信・循環型農業を取り入れる・共同出資会社で使用済プラスチックの再資源化に取り組む

①～③は一例で、これ以外にも考えられます

令和4年度若手フォーラム第4回ワークショップ

第4回ワークショップのすすめかた

事前課題①（個人課題） ※10月20日（木）までにFCP事務局へ提出

食品関連事業者が取り組むCSV経営の実践例を1つ調べて、どの共通価値にアプローチしているか、また「社会価値」・「企業価値」にどのように貢献しているかを考え、記入する（ピンク色の指定フォーマット）

※ ご自身の会社、関係先、もしくはNETで調べた興味のある実践例でかまいません

参考：伊藤園 <https://www.itoen.co.jp/sustainability/>

ネスレ <https://www.nestle.co.jp/csv>

KIRIN <https://www.kirinholdings.com/jp/impact/>

事前課題②（チーム課題） ※11月11日（金）までに、リーダーがFCP事務局へ提出

取りまとめフォーマットの「Ⅰ.食品事業者として目指すべき未来像（目標の設定）」（水色のフォーマットの左側）についてチームで話し合い、記入する

フォーラム当日は「Ⅱ.未来像の実現のために、食品事業者として今後必要な取組（目標達成させるための提案）」（水色のフォーマットの右側）について議論する

食品産業におけるガバナンスとCSV経営

食品産業におけるCSVの取組

CSV経営の事例

	伊藤園	ネスレ	KIRIN
共通価値の創造の取り組み	②バリューチェーン全体の生産性の改善 「茶産地育成事業」	②バリューチェーン全体の生産性の改善 「栄養、水、農村開発」	※当日の講演を参照
社会価値	・農家の教育と安定的な収入を確保する	・生産地のインフラ整備と教育を充実させ、農業従事者を育成する ・現地工場の技術を向上させる	
企業価値	・緑茶の原料である茶葉を、安定的にかつ高品質で仕入れる	・カカオやバニラ、ヘーゼルナッツなどの主要原材料を持続的に調達する	
行動	・茶葉農家と契約し、茶葉を生産してもらい全ての茶葉を購入する	・乳業工場の現地地下水取水量ゼロ技術の普及（環境保護） ・農業従事者研修（47,962名） ・学校建設・改修（42校）※2015年 ・児童労働モニタリング	
結果	・伊藤園は茶葉の仕入れを安定できた（日本の緑茶飲料市場の約35%をもつ） ・農家の収入を安定できた	・カカオやバニラ、ヘーゼルナッツなど主要カテゴリーにおける児童労働を減らした ・改善要請システムの適用対象となるコートジボワールのカカオ農業協同組合の割合を50%に拡大した	

食品産業におけるガバナンスとCSV経営

第4回ワークショップのすすめかた

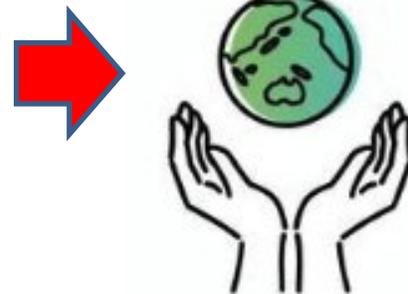
事前課題①②から「Ⅱ.その実現のために今後必要な取組」を話し合ってみよう

とりまとめのポイント

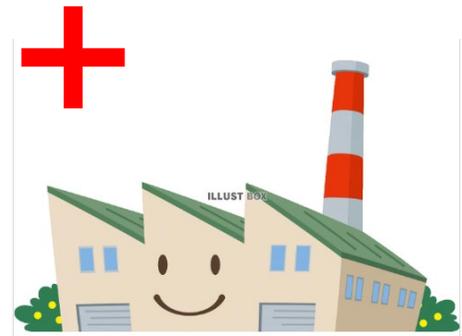
1. チームの中でCSV経営の目的と言葉の理解を深める (p 3, 4)
2. 食品事業者として目指すべき未来像 (目標の設定) に対して、今後、それを実現させるために必要な食品事業者の取組みについて、アイデアを出し合う (過去や現在の取組み事例よりも、あらたな発想でアイデアをだす)

CSV経営

企業の社会的責任 (CSR コンプライアンスやサステナビリティなど) から、取組みの対象を、全社 (より広範に) 拡大し、事業に直接関連する効果を得る



アイデア出し



3. ステイクホルダー (周囲の人たち) がイメージできるようにまとめる

ワークショップ用
事前課題①

食品産業におけるガバナンスとCSV経営



食品関連事業者が取り組むCSV経営の実践例を1つ挙げて、どの共通価値にアプローチしているか、また「社会価値」・「企業価値」にどのように貢献しているかを考え、記入してください

チーム

記入者：

実践例：

【共通価値：①～③のうち選択（重複可、①～③以外の場合は具体的に記載）】

【社会価値】注目した社会的課題

【企業価値】事業を通じて解決できる課題

ワークショップ用
事前課題①

食品産業におけるガバナンスとCSV経営



食品関連事業者が取り組むCSV経営の実践例を1つ挙げて、どの共通価値にアプローチしているか、また「社会価値」・「企業価値」にどのように貢献しているかを考え、記入してください

チーム

記入者：

(例) 実践例：

生活習慣病の予防につながる「商品」と「サービス」を開発する

【共通価値：①自社製品やサービスの見直し】

【社会価値】注目した社会的課題

(例)

- 社会の高齢化でより深刻化する生活習慣病を予防し、みんなが健康になる
- 健康寿命を平均寿命に近づける
- 医療費の抑制、最適化につながる

【企業価値】事業を通じて解決できる課題

(例)

- 生活習慣病の原因である「食事の質」「適度な運動」「ストレス解消」をコンセプトに商品とサービスを販売し、利益を向上させる
- 取り組みによる企業のイメージアップにより企業価値を向上させていく

事前課題から得た社会価値と企業価値を両立させる食品関連事業者の①目指すべき未来像②その実現のために今後必要な取組を話し合っまとめてください

チーム 記録者

発表者

I.食品事業者として目指すべき未来像（目標の設定）

事前課題②

（目標達成時期の目安があれば記入）

II.未来像の実現のために、食品事業者として今後必要な取組（目標達成させるための提案）

- ① 自社製品やサービスの見直し
- ② バリューチェーン全体の生産性の改善
- ③ 産業クラスターの創出（地域への貢献）
- ④ その他

ワークショップ・チーム別 取りまとめ（記入例）

食品産業におけるガバナンスとCSV経営



事前課題から得た社会価値と企業価値を両立させる食品関連事業者の①目指すべき未来像②その実現のために今後必要な取組を話し合っまとめてください

チーム 記録者

発表者

I. 食品事業者として目指すべき未来像（目標の設定）

事前課題②

（例）サプライチェーンの
すべての人の心身を健康
に！



（目標達成時期の目安）5年

③については5年で始動のための準備

II. 未来像の実現のために、食品事業者として今後必要な取組（目標達成させるための提案）

（例）

① 自社製品やサービスの見直し
・生活習慣病の予防につながるような商品を開発する

新しい商品やサービスを生み出すことで、「社会価値」と「企業価値」の両立を考える

② バリューチェーン全体の生産性の改善
・各段階の生産効率を見直し、AIやIoTの活用によりワークライフバランスを実現する

生産、販売、物流での社会的課題に対する、「社会価値」と「企業価値」の両立を考える

③ 産業クラスターの創出（地域への貢献）
・地域と協働し、他企業を巻き込んで地域振興のための産業クラスターを形成させる
・開発事業者等とも協働し、まちづくりをする
→既存の居住者に対する雇用を創出すると共に、魅力的なまちづくりにより定住人口を増加させる

産業創生や地域貢献の視点で「社会価値」と「企業価値」の両立を考える